

令和 6 年 5 月 1 日現在

機関番号：82723

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K19515

研究課題名（和文）バレーボールの一流セッターの実践知に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Practical Knowledge of Volleyball's Elite Setters

研究代表者

五十嵐 元（Igarashi, Gen）

防衛大学校（総合教育学群、人文社会科学群、応用科学群、電気情報学群及びシステム工学群）・総合教育学群・助教

研究者番号：30791397

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的はバレーボールにおける我が国のセッター育成に寄与する知見を実践現場に提供することである。

調査の結果、研究対象者が一流セッターとして活躍する際に実践したプレーの詳細や、動作の習得過程、意識の向け方など、様々なデータを抽出することができた。抽出された内容は、指導書や指導現場で用いられる基礎的な動作や、技術の動作原理を包含していることが示唆された。また、研究対象者は、基礎とは異なる洗練された実践知を有しており、それらはこれまでの指導書では紹介されていない内容であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

一流選手の実践知は、自然科学的な手法で抽出することは困難である。運動学的に明らかにした本研究の手法は、その他のスポーツにおいても、重要な役割を果たすこととなる。

また、本研究で得られた知見は、実践現場に極めて有用で、バレーボールにおけるセッターのパフォーマンス向上や、指導者のコーチングの最適化に活用することができる。そして、本研究の知見は、我が国のセッター育成に寄与することとなり、バレーボールの競技力向上につながることになるだろう。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study was to provide the field of practice with knowledge that will contribute to the development of setters in volleyball in our country.

As a result of the research, various data could be extracted, including details of the plays practiced by the research subjects when they played as first-class setters, the process of acquiring the movements and the way they were conscious of them. It was suggested that the extracted content encompassed the basic movements used in instructional manuals and in the teaching field, as well as the operating principles of the technique. In addition, the research subjects possessed sophisticated practical knowledge that differed from the fundamentals, which had not been presented in previous instructional books.

研究分野：体育

キーワード：バレーボール セッター

1．研究開始当初の背景

スポーツの競技力向上には「理論と実践を踏まえた科学的なアプローチ（体育・スポーツ科学）が必要である」。また、理論と実践は『客観的な事実』と『主観的な感じ』とも呼ばれ、相互の関係性が理解されたうえで、選手の特性に合わせて指導に活用されることが望まれる。これまで『主観』及び『客観』について明らかにした研究はある程度見受けらる。しかし、一流選手の実践知に関する『主観』及び『客観』の相互関係を整理した研究は、科学的なアプローチを踏まえた指導するうえで極めて重要であるものの、申請者らの研究を含めてごくわずかである。

2．研究の目的

バレーボールは、良いセッターがいなければチームの潜在能力を出し切ることは難しく、最も重要なポジションであり、最も重要なプレーであると認識されている。

そこで本研究は、我が国のセッター育成に寄与する知見を実践現場に提供することを目的に、(1)国内の一流セッターが持つトスに関する実践知を語りにより収集する(2)収集した語りの内容を分析し、実践知の『主観』について明らかにする(3)語りにより特定した実践知を『客観』的に明らかにする(4)実践知を『主観』『客観』双方の視点から複合的に検討する、以上の4つを明らかにする。

3．研究の方法

本研究は、一流セッターのトスに関する実践知の『主観』を特定し、その後『主観』を『客観』的に検証する。

1)『主観』の分析

研究対象者にアンケート調査票を研究対象者に実施してもらいインタビューを行う際の資料とする。アンケート調査票への回答が済んだ研究対象者に、半構造化インタビューを用いて、トスに関するインタビューを行った。語りで伝えにくい内容は、身振り手振りなどを用いて表現することを依頼する。さらに、インタビューを複数のビデオカメラで録画する。保存したインタビュー内容を逐語録として全て文字に起こし、内容を深く理解するため逐語録を熟読し、意味や内容に変化がないよう留意しながら補足を付け加えた。研究協力者に内容が恣意的に操作されていないかを確認してもらい、信頼性と妥当性を高めた。作成したテキストを研究対象者に送付し、内容に訂正や齟齬がないこと、解釈が適合しているかを確認し、問主観性を確保する。

本研究の分析は、正確さや事実に関心することなく、優れたパフォーマンスでオリンピック出場までに至った過程の中で組織化された経験の語りであり、意味づけられた行為の語りであるとして分析を進める。

2)『客観』の分析

出された実践知が実際の動きとしてどう表出しているか、バイオメカニクスの分析指先に圧力測定装置を装着しトスの実践知に関する指先の圧力の測定 記述的ゲームパフォーマンス分析によってトスの実践知を分析する。

（『客観』の検証においては、のいずれか、または複数の適切な手法を研究協力者と熟議し『主観』の検証を行う）

2022 年度

3) 複合的検討

『主観』と『客観』の分析が終わり次第、順次相互関係を検討する。『客観』が『主観』を支持するときは、実践知が研究対象者の『主観』通りの現象として表出していることとなる。『客観』が『主観』を批判するときは、実践知が研究対象者の『主観』と異なった現象として表出していることとなる。

4. 研究成果

研究成果については、以下の成果が得られた

(1) 一流セッターのトスに関する実践知の『主観』(五十嵐ほか、2023)

セッターとして活躍する際に実践したプレーの詳細や、動作の習得過程、意識の向け方など、様々なデータを抽出することができた。得られた知見は、指導書や指導現場で用いられる基礎的な動作や、技術の動作原理を包含していることが示唆された。また、研究対象者は、基礎とは異なる洗練された実践知を有しており、それらはこれまでの指導書では紹介されていない内容であった。

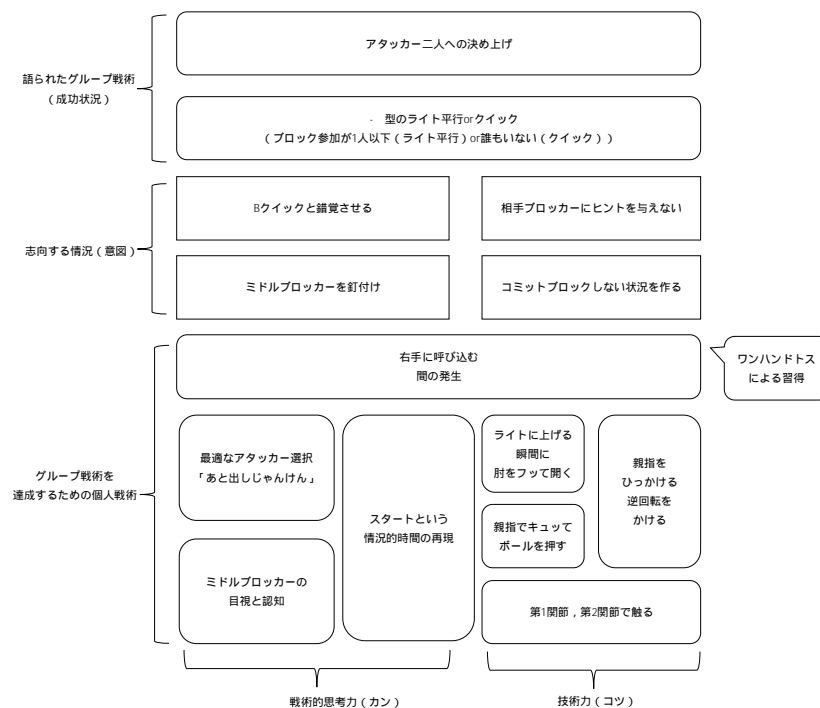


図 実践知の構造の一事例

客観、複合的検討については、順次発表予定である。

< 文献 >

五十嵐 元、長江 晃生、中田 学、青木 和浩 (2023) バレーボールにおけるオリンピックセッターの実践知に関する研究 . スポーツ運動学研究 , 36 : 45 - 67 .

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1．著者名 五十嵐元, 長江晃生, 中田学, 青木和浩	4．巻 36
2．論文標題 バレーボールにおけるオリンピアセッターの実践知に関する研究	5．発行年 2023年
3．雑誌名 スポーツ運動学研究	6．最初と最後の頁 45 - 67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1．発表者名 五十嵐 元, 中田 学, 青木 和浩
2．発表標題 バレーボールの一流セッターの実践知に関する研究
3．学会等名 日本体育・スポーツ・健康学会
4．発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	長江 晃生 (Nagae Akio)	大阪体育大学	
研究協力者	中田 学 (Nakata Manabu)	順天堂大学	
研究協力者	阿江 数通 (Ae Kazumichi)	日本体育大学	

6．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	青木 和浩 (Aoki Kazuhiro)		

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------